

特集

学生とつくる
授業

LESSON

学生がつくる
授業

「教育者主体」であった教育機関は、いま「学習者主体」に大きく変わろうとしています。教員はただの「教える」存在からの脱却を求められ、教えられる存在だった学生が、自ら学ぶ存在へと立場を大きく変えることになります。当然、看護教育においてもその流れは同じです。

実際、学生が主体的に学ぶ試みとして、「学生参画型教育」を取り入れる学校が増えてきました。文字通り、学生自身が教育に参画する方法で、広くは先輩による後輩指導や、PBL などのようなグループワークも含まれます。さらに学生主体を突き詰め、「授業」そのものを学生につくらせ、自らが学ぶということに向き合わせるという方法をとる例も現れてきました。今回は、そんな「学生とつくる授業」「学生がつくる授業」の取り組みの実際を紹介します。

ここでは、学生が授業をつくる状況にまで導く教員の力が必要です。従来の講義中心の授業よりも、時間も手間もかかるかもしれませんが、自立した学生を育てるために、学生「と」つくる授業へ、そして学生「が」つくる授業への発展に、ぜひトライしてみてください。